創意と払った努力はことばのはしばしに伺い知ることができるが、何はともあれ後継者の自主性を尊重し、彼等の農業への意欲を興させることが要諦であろう。

また協定といえば形式ばって、親子関係をまずくすると懸念する向きもあるが親子の正しい理解と愛情を基調に親は子を信頼し、子は経営の基盤を確立してくれた親を敬う関係を確認しあうならば、ますます親子協定は有効化するだろう。後継者をつなぎとめるため単車や自動車を買い与え腐心する例もあると聞くが、これでは本質的な解決にならないだろう。

□ 経営参加の意欲を

後継者を早い機会に経営に参加させ、責任をもたせることによって意欲を興させる、これが親子協定の狙いである。

しかし、後継者は卒業直後は経営的には勿論、技術的にもまだまだ未熟であるのでいきなり大きな責任をもたせることは、苛酷でもあるし危険である。

そこで、後継者の成長にあわせ協定を進化させる必要があることは他の職場の後継者育成の考え方と同様である。

また、親子協定は単なる経営権の早期若返りであってはならない。後継者の意欲を規模拡大にふりむけることが大事である。

□ 広まりゆく親子協定

このような考え方を勉強する場として県では昭和四十二年度より市町村の希望によって親子教室を開設している。昭和三十九年度親子協定の拠点農家を設けて濃密な指導を行なった結果、相当な成果が認められたので、その成果をもとにこのような親子協定の考え方や進め方を修得してから広く県下に普及するため開設するのである。

親子協定は欧米諸国の父子契約が輸入されたもので、日本の社会環境では成り立ちえないとする批判が一部にあるが、〃ある青年の手記〃の場合は行政機関の何んらの指導もうけずに全く〃経営の知恵〃として自然発生的に親子協定が実践されており注目に値いする。

□ 後継者のためのよき経営環境を…

このような先進農家に共通していることは俗にいう成長部門を経営の柱にしていることや、ものわかりの良い親が経営主であること等であり、後継者の経営における比重が高まらざるをえない経営環境にあることから親子協定が必然化したとみるべきであろう。このような環境を意図的に作ることが親子改善の狙いでもある。こうしたことからいま急速に県下に親子協定が広まりつつあるが喜ばしい限りである。

（農業改良課）

〈前頁より〉

建設班は、中学を出たばかりの人から、二十五才までの独身の農業後継者が対象で、研修の時期には二月から三月の農閑期があてられている。研修期間は一カ月。この間、朝六時の起床から夜一〇時の消燈まで、営農改善や親子協定農業などについての学習に、あるいは、労力不足の班員の家の手伝いを兼ねたほ場の共同作業で実技の研修にと充実した日程がくまれている。大型トラクターの免許も、女子を含めた全員が、この研修期間に取得するという。

こうして、建設班の中で寝食を共にし、共に語り実践活動を進める内に育くまれた農業への意欲と仲間意識は、建設班を修了後、毎月一回、同期生が研修所に集まって行なう例会で更に上積みされていく。ここでは、実際、わが家で経営にあたっての疑問点の持寄り検討や、ラジオ農業の研修など、中食会や夕食会を共にしての楽しい会合の花が咲く。六月の七期生の会合では、田植えの労力交換が持ち出され、実行に移されたなど嬉しい話題も多い。

若い広場

若者たちは燃えている

—Y君とその仲間たちの周辺—

山下ミエ子（二十三才）

若草色の新車／ハンドルさばきも軽やかに今朝もY君の運転する愛の栄養定期便が、学校から学校へ給食用の牛乳を届けて回る。酪農経営をしている彼が取引先の会社から委託を受けてこの仕事にとりくんだのは、学校給食のミルクが生乳に切替えられた学期はじめの四月からである。

彼は、後継者育成を目的として村の教育委員会が開設している郷土青年教室の第一期生。中学卒業後一年間、八代の松田農場で心身を鍛え農魂を身につけて帰り、酪農経営に研究を重ねながら地域の青年活動にも積極的に参加している好青年である。

水田、果樹園は父親、酪農商店の経営は母親、酪農はY君と合理的に経営の責任が分担され、午前五時に起きて搾（さく）乳することから彼の一日が始まるのである。しぼった生乳を近くの農協酪農部まで運び五頭の乳牛に飼料を与え畜舎の清掃作業、消毒等大変な労力である。この酪農収入の二〇%を家計にまわし飼料代や必要経費を精算して残りの利益が農協の彼の預金口座に振り込まれる訳である。「やりがいがあります」と語る彼の瞳は夢と希望に輝いている。この成果の陰にはもちろん両親の理解と協力があることを忘れてはならないが、彼なりに自分の経営内容を研究し開拓してきた結果だと思われる。牛乳の生産から学校給食用の生乳配達と関連性のある今の仕事が、次の世代を担う子供らの体位向上に大きな役割を果していることを知って、新たな職業意識にめざめているとか……。

このY君の影響をうけたのだろうか、農業後継者育成資金の融資貸付け制度を利用して現在、常時五頭を目標に牛の肥育にがんばっているU君、桃の栽培一切を引受けて、消毒、施肥に汗を流し予想以上の収穫になお一層生産意欲を燃やしているT君ら、〃やればできる〃という強い自信と営農に対する希望が彼らの貴重な体験から、表われているようである。

このような青年達の真しな姿も、現在はまだ地域における一つの「点」にすぎないかもしれないけれど、この点と点が結ばれて「線」となり、線から「面」へ発展して大きく地域の農業経営が改善されていく日も近いことろだう。これら青年こそ農村近代化への「人柱」でなく「大黒柱」であり、「宝」だと思う。

在郷青少年の育成が本村の総合社会教育の地域共通課題として位置づけられ、その実践活動が要請されているが、社会教育の一分野にたずさわる私も、この青年達と共に若い世代の一員として、さらに住み良い農村の実現をめざして努力して行きたいと念じている。

（玉名郡三加和村）

土とたたかう
若き農民像

平川公明

人づくりは、まず体力づくりから

十五、六年前のことですが、農村に残る新規学卒農業就業者は全国で約四三万人もいましたのに今日では六万人台に減少し、時代の流れのきびしさに驚かされます。

そして、これら数少ない跡継ぎが今年も四〇〇人以上私どもの農場に入りました。

彼等が全部農業の跡継ぎとなれば、県では約三、〇〇〇人程度の数ですから、大変高い比重となり一人の落伍者も出せないと覚悟を新たにいたします。

彼等は約九〇%が長男で、しかもひとりっ子というのが半分近くもいます。また女子の場合二二%が養子を迎える身です。平均耕作面積も約一八〇㌃で、経営規模もかなり大きく、将来の農業に希望がつなげそうです。出身地別では阿蘇方面が多いのですが、それでも菊池・鹿本方面も相当の数にのぼり、また最近では上・下益城・八代方面の増加が目立ってまいりました。

入場時はまだ童顔の体つきも本当にひ弱い感じのする彼等ですが、さて今後の農業を考えますとますます規模拡大される状況ですから、今まで農村型といわれました身長低く、体重・胸囲の優れたずんぐり型でなく、先進農業国の農民に見られる如く特に腰囲・胸囲・上肢が発達した身体に育つようわが国でも腰囲・胸囲・体重に身長の発達した体力づくりが要求されると思います。

このようなことで彼等をながめますと残念ながら身長・体重・胸囲とも県平均の同年令より劣ることが指摘され、将来が懸念されます。しかもいちばん伸び盛りの年令ですから体力づくりには気を使わねばなりません。

また体力づくりに欠かせないのは給食関係でしょう。入場当時は肉が嫌いだ、魚が嫌いだといって食べない者も随分多いのですが、野菜類でも農村の傾向がよく現われ慨して生食野菜は好まない傾向が強く、イチゴが酸っぱく食べられないと残すなど、栄養摂取のアンバランスとまた調理法の問題も考慮しなければなりません。

夢はでっかく、根性はたくましく

ところで殆んどが一年間という短い教育期間ですから、朝早くから夜間までぎっしりつめたスケジュールで訓練を行ないますが、これらは全寮制という規則正しい生活を行なってこそ初めて出来る仕業です。親元をはなれ全員が寝食を共にしながら友愛を深め、共同心や自主性を養うという集団生活は青春時代のひとこまとして人間陶冶の上からも、大変役立つものと思います。

入場間もなく、欲しいものは何かと尋ねますと、家に帰って寝れるだけねむり腹いっぱいご馳走を食べ、ゆっくりテレビを見ることだ、と可愛いいことを言いますが、農家の跡継ぎは特に親の生存中仕事、生活共に一緒に行なうことが多いのですから、若い時に一～二年外部から家庭をながめることは、その有難さがわかってよいことだと思います。

朝五時半の起床も習慣となればネをあげる者は一人もいません。また今年のような場合、天候の関係で田植作業も畑作の植え付けも一度に重なり、随分忙がしい思いをしましたが、しかし早朝の農作業は面白いほど進行しました。早起きは農業にとって理屈ぬきで実行したいことです。常に日の出から四〇分程度早く起きれば暗いということはなく、爽快な朝の霊気にひたりながら作業がすすめられる、と彼等にはいい聞かせています。

さて、鍛練によって心身ともに見違えるように成長して参りますが、最大の悩みはせっかく農場で企業農業を修得しても卒業後家庭に帰って直ちにこれが実行